

Ⅲ 大豆

(kg/10a)

1 施肥量

	目標収量	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
転換初年目 肥沃田	300	0	10	10
連作田 やせ地 晩播		3	10	10

2 施肥上の留意点

- ①本基準は転換畑大豆栽培で、全量元肥とする。
- ②作付け前に土壌診断を実施し、残存肥料分の程度によって施肥量を加減する。
- ③濃度障害によって出芽阻害や根の伸長阻害を引き起こすことがあるため、種子と肥料が接触しないように施肥位置を調整する。
- ④畑大豆栽培は窒素、リン酸をやや増施する。
- ⑤石灰質資材により土壌 pH を矯正する。稲麦大豆体系における最適 pH は 6.0～6.5 である。
- ⑥堆肥を施用する場合には、畜種、処理方法により成分含量や肥効率が異なる事を十分に考慮して化学肥料施肥量を加減する。また、豆類は窒素要求量が少ないため、施用量に注意し、窒素過多にならないようにする。